

生き残らなければ何も始まらない

# 体験型 市民減災・災害対応訓練

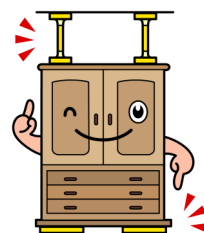
この防災イベントにはヒントがたくさんあります。  
体験を身に着けて地域で広げてください。

## 安全空間作り

生き残れますか？  
怪我をしませんか？

今夜、震度6クラスの地震が来た時に、大丈夫？

- あなたのおうちは耐震化は大丈夫ですか？
- 家の中に安全空間はありますか？
- 家具は固定されていますか？
- テレビはワイヤーで固定されていますか？
- 食器棚などのガラスの飛散防止は？



電気が止まると「水」も止まります。

- トイレが使えなくなります。排泄が出来ない。
- マンションにお住いの方…備えていますか？ 管理組合でルールを作っていますか？
- 後処理はどうしますか？



## 出す

「排泄」のことです・・・



## 食う

米・ミルク…大丈夫？  
アレルギー対策は？

最低5日分の食べ物を備えていますか？

- 電気・ガスは止まります。復旧までにかかなりの時間がかかります。熱源はありますか？
- 災害でも、普段の食事ができますか？
- ミルク・離乳食は・・・誰にも頼りません。

## 飲む

飲用水・生活水は？

一人1日3リットルの水を最低5日分・・・

電気が止まると配水所が機能しなくなります。給水停止。

- 水はどこにあるか知っていますか？
- その場所から、運ぶ器具や用具はありますか？
- 生活用水はどうやって確保しますか？



災害を想定したリアルな体験型の訓練です。

ぜひ、家族で近所の方と一緒に参加してください。

日時：平成30年9月29日（土曜日）9：30から13：00まで（災害食付き）

場所 座間市役所 ふれあい広場・市役所アトリウム

参加費：無料 小雨催行・荒天中止対応は裏面参照

持ち物：帽子・手袋・タオル・飲料水

締め切り：9月26日（水曜日） 17：00

受付は  
9:15から



30年度 協働事業です。  
裏も見てね

## 情報の確保

灯りは電気は！



電気は止まります。復旧にはかなりの時間がかかります。その間、暗闇のなかで生活できますか

- 首都が被災地です。復旧作業は優先順位があります。
- 5日間程度電気は期待できません。
- 発電機・・・物流も止まります。燃料も入らないことを考えましょう。太陽光蓄電池を考えましょう。

## 応急手当

移送・身近なものでの手当



救急車は期待できません。軽症者を病院へ運ばないで・・・  
けが人の応急処したらいいのかな？

- 医療資機材はありますか？ 身近なもので応急手当をしよう
- 「助けたい人より、助けやすい人」をの意味を知ってください。

この体験型の訓練は、近い将来「都心南部直下」で発生想定されている地震からの被害を少しでも少なくする「事前防災のわざ」と、起きた時に生き残った「いのち」を守り、「生き抜くわざ」を自分で体験する訓練です。ここで学び、身に着けた「わざ」を地域の、平時の「減災活動」や「防災訓練」に生かしてください。消防署や防災担当者と呼んでの訓練は、実際の災害の時にはあまり役に立たないのです。自らが考えて、体験したことから学んだ「技」が大事なのです。

### 体験型訓練参加申込書

FAX : 046-252-7773 危機管理課

氏名	年齢	電話番号	団体・町名

食材や資機材の準備の関係で、**9月26日(水)までに**この用紙に所定事項を記入してFAXまたは、メールでお申し込みください。(いただいた個人情報は座間市市長室危機管理課が取り扱いこの訓練以外には使用しません)

### 《会場案内図》



小田急線相武台前駅下車 徒歩約15分

### 体験科目(予定)

- ① 非常用炊出し袋による炊飯(必須)
- ② 減災の基本 家具固定・ガラス飛散防止体験
- ③ 災害時の家庭用トイレの使い方体験
- ④ 水の運搬・備蓄対応体験
- ⑤ ブルーシートの活用法(三角テントとロープの使い方)
- ⑥ 発電機の操作と太陽光蓄電システムの展示と活用解説
- ⑦ 身近なものを使った応急手当・傷病者搬送体験
- ⑧ 消火機材操作(投てきパック)・バケツリレー体験(全員)
- ⑨ 災害食の配食と食べ方

電話申し込みOKです。

**【問い合わせ先】** 座間市危機管理課 電話:046-252-7395

FAX : 046-252-7773

または、

ざま災害ボランティアネットワーク

E-MAIL : zsvn\_info@yahoo.co.jp

荒天時中止確認は市役所代表電話:046-255-1111で確認願います。